

緑区における観光振興に関する

提言書

～リニア中央新幹線開通を契機に～

相模原商工会議所
緑区観光振興戦略プロジェクト

人口減少・少子高齢化が進展するわが国において、観光は、関連する業種が多岐にわたる裾野の広い産業であり、国内外からの交流人口の拡大とその旅行消費によって、地域の需要創造・雇用創出に大きな波及効果をもたらします。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、インバウンド需要は消滅し、国内の観光需要も2年以上にわたり低迷しています。ワクチン接種の普及、治療薬の開発が進むなど、感染症拡大防止と社会経済活動の両立に向けた環境が整備されつつありますが、変異株による感染再拡大によって、本格的な旅行再開までの道筋は不透明な状況が続いています。

また、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化等により世界的に原油高・資源価格の高騰とともに、円安や急激な物価高で世界および日本経済は急速に収縮し、国民生活にも甚大な影響を及ぼしております。

そのような中で、相模原市においては、2027年開通予定のリニア中央新幹線の（仮称）神奈川県駅となる橋本駅北口付近では、既に開通に向けた工事が開始されるなど、橋本駅と相模原駅が一体となった広域交流拠点のまちづくりが進められております。さらに、緑区の津久井地域には、豊かな自然をはじめとした観光資源が豊富にあり、将来のまちづくりにポテンシャルを秘めており、この都心から近い都市型観光の特徴を活かすことが、シティーセールスの観点からも重要だと考えております。

つきましては、2023年度に実施予定の「第3次相模原市観光振興計画」中間見直しへ本提言内容を反映いただけますよう、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

I. リニア中央新幹線開通を契機とした緑区の観光振興戦略(案)について (別紙)

以上

令和4年10月27日

相模原市長 本村 賢太郎 殿

相模原商工会議所
会頭 杉岡 芳樹

リニア中央新幹線開通を契機とした緑区観光振興戦略案

背景・目的

JR東日本横浜線・相模線・中央線、京王相模原線、圏央道・中央高速道といった既存アクセスに加え、(仮称)リニア神奈川県駅の開業により、首都圏南西部からの交通利便性が飛躍的に向上する。将来、首都圏からの「“富士周遊”新ルート」の形成など、観光を基軸としてリニア中間駅を『降りたくなる駅』に成長させることで、相模原市の観光を産業として進展させることにより、地域経済の発展に資することを目的とする。

首都圏南西部の観光圏の形成 = 点から面へ！

～首都圏隣接の「緑溢れ、水清き隠れ里（奥座敷）」である道志溪谷とその隣接地（北相地域）の観光開発～

計画・スケジュール

●地元目線 + αをベースに、観光資源の競争力を磨き上げる

- ・ 点在している魅力を4つに分類し、連動性をもたせ面で展開する。
- ・ 既存の魅力に、民間事業者ならではの視点を付与し磨き上げを図る。

< 4つの計画 >

- ① 新サイクリング・ワールド
- ② 新キャンプゾーン
- ③ グリーンシャワー・エリア
- ④ 観光施設の整備等



※計画概要は別紙参照

●官民協働、特に津久井在住者の未来づくりを支える

相模原商工会議所を中心とした観光に特化したプロジェクトチームを発足

< 計画 >

- ・ 現状調査、課題の追求
- ・ 域内外の連携体制の確立
- ・ 各コンテンツの開発、整備
- ・ 道の駅 & サテライト施設の建設
- ・ 観光ルートの確立
- ・ S D G s、Maa Sの具現化
- ・ 中間駅連携の観光ルート模索

2021～2023

2024～2027

2028～2031

< 体制 >

- ・ 相模原商工会議所プロジェクトチームにより進め、市、津久井商工会や各観光協会等と連携・協議
- ・ 市若手職員によるチームとの連携
- ・ 推進団体の確立（DMOも視野）
- ・ 域外団体、大手開発企業との連携
- ・ DMO（広域観光）の形成
⇒北相(旧町の商工会、観光協会)&道志 & 山中湖の一体化

効果

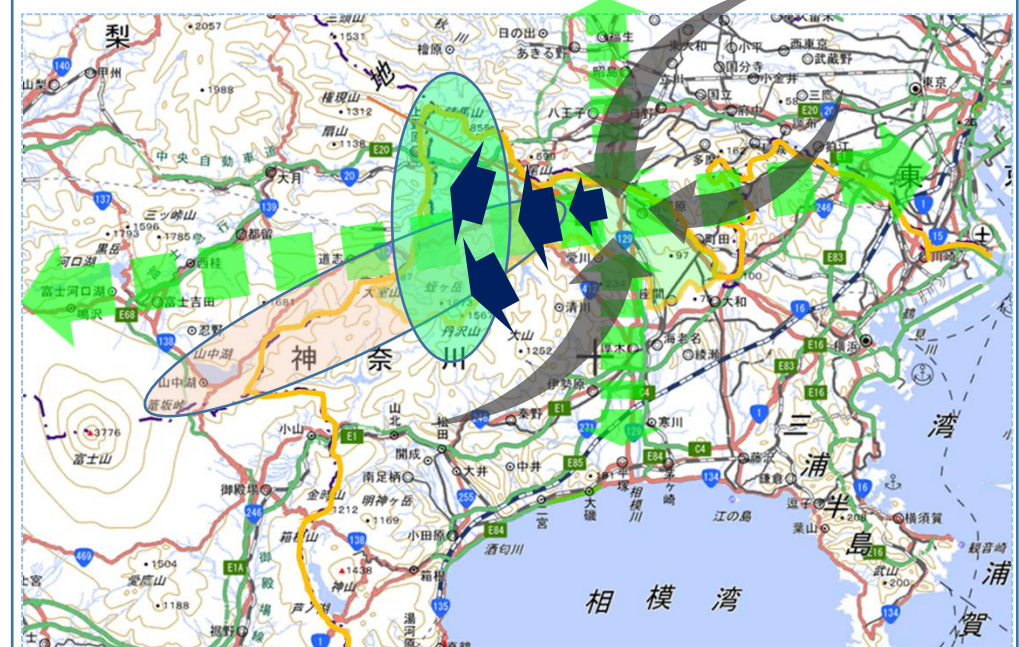
●リニアを起点とした首都圏南西部の観光エリアの確立

⇒“降りたくなる駅”へ。観光を目的とした交流人口の拡大により、相模原市の認知度、シビックプライドの向上を図る。

●“観光産業”の確立

⇒中山間地域において、産業としての観光を確立。従来のボランティアベースではない観光により、雇用確保や景観保全等に寄与する。

< 計画対象エリアと交通・来訪者の動線 >



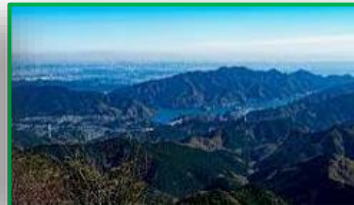
①新サイクリング・ワールド

- ・オリンピックコースの整備を基軸に北相全域でのモデルコースの充実。
- ・レンタルEバイク等貸出の整備。立寄りポイント（カフェ、整備施設）の整備。
- ・自転車通行の注意サイン&走行ラインの整備。
- ・自転車文化の啓発、振興（レース、イベント）。



③グリーンシャワー・エリア (ハイキング・登山・里山体験)

- ・道志川流域の奥丹沢、道志山塊等のコース開発、整備。
- ・Wi-Fi整備。インバウンド向けガイドの育成。
- ・道標の整備。登山計画、入山記録の電子化。
- ・ドローンの活用（案内空撮、鳥獣・山ヒル対策）



④観光施設の整備

- ・国道413号線等に流域観光のゲートウェイ機能として「観光施設」を整備。
- ・駐車&駐輪場、キャンプ用品&自転車レンタル、域内特産品の販売。
- ・道の駅の付帯として、ホテル・グランピング・サテライトオフィスの整備。
- ・津久井湖パノラマ陸橋、津久井城の山城整備。
- ・橋本駅（リニア）発着のバスターミナル整備。（圏央道、道志方面への送客）



②新キャンプゾーン

- ・道志渓谷に集中するキャンプ場群（46か所）一体整備。
- ・ネット予約管理&情報システム、レンタルキャンプ用品SET。
- ・津久井産材（薪類、木工品）、特産食材（ジビエ、水）の提供。
- ・道志川流域内の温泉場整備（森ラボ2）。



観光振興戦略における4つの計画の概要

I. 背景・前提

- ・相模原市緑区地域においては、JR 横浜線・相模線・中央線、京王相模原線、圏央道、中央高速道といった既存アクセスに加え、リニア中央新幹線（仮称）神奈川県駅の開業により、首都圏南西部からの交通利便性が飛躍的に向上する。

そのような中で、将来、首都圏からの「富士周遊新ルート」の形成など、観光を基軸としてリニア中間駅を「降りたくなる駅」にすることで、相模原市の観光を重点産業として進展させることにより、地域経済の発展に資することが重要。

II. 考えられる方策等

- ・首都圏南西部の新観光圏の形成には、点から面へのゾーニングの考え方と合わせて、地元目線をベースに観光資源の競争力を磨き上げることが重要
- 首都圏南西部の「緑溢れ、水清き隠れ里（奥座敷）」である道志溪谷（含む山梨）や、北相全地域、さらに隣接高尾エリアでの観光振興策に繋げる。

III. 期待される効果

- ・対象地域では、圏央道（相模原 IC.）や中央高速道（相模湖 IC.）などにより、首都圏（新宿、多摩、京浜、神奈川県県央・湘南地区等）近隣からマイカー、高速バス等の利用が大きく向上した。また、10 余年後には、リニア中央新幹線「(仮称)神奈川県駅」が開業し、鉄道網も飛躍的に拡充され、スーパー・メガリージョンシティーの誕生とともに、広域的な集客が可能となり、拡充される観光拠点をゾーンで振興できます。

IV. 具体的な4つの計画

- ・点在している魅力をエリアやゾーンで4つに分類し、連動性をもたせて面で展開する。

「①新サイクリング・ワールド」「②新キャンピングゾーン」

「③グリーンシャワー・エリア」「④観光施設の整備等」

さらに、既存の魅力に民間事業者ならではの視点を付与し磨き上げを図る。

①新サイクリング・ワールド

- ・オリンピックコースの整備を基軸に、国道413号線に限らず流域および北相全域でのモデルコースを充実し、多彩なコースで多聖地化を図る。
- ・相模原市における自転車文化の醸成・啓発（バイクロア等）など、恒常化して土壌を作る。名誉観光大使片山右京氏にちなんだ自転車レースの検討など。

②新キャンピング・ゾーン

- ・道志溪谷(21.7km)に集中するキャンプ場群(46箇所)のSNS発信強化を図る。
- ・具体策として、ドローンを活用したPR、美トイレ徹底、ソロキャンプ奨励、巡回キッチンカー導入。津久井産材（木工品等）、特産食材（ジビエ）の活用。冬場対策としてテントサウナの活用。（フィンランド大使館との連携も検討）
- ・青根地区に「リーディングキャンプ場」の設置。（モンベル等連携）→兼森ラボ2環境に優しいキャンプ場群をPR＝水質浄化+新水力+風力発電。相模湖周辺キャンプ場の湖面活用の推進。

③グリーンシャワー・エリア

(1)散策ハイキングと地域振興の強化

首都圏での「エコゆる登山エリア」＝散策・地域性強化

女性や高齢者、ファミリー、在日外国人&インバウンドに味わい深いハイク・エリアの創出。

(2)低山遭難への対応

転・滑落、転倒、道迷い、疲労や病気、落雷、増水、下山遅れ、野獣等への対応が必要。登山者自身への注意喚起、エリア天気予報、近隣医療施設の紹介。

山ヒル忌避剤等を入山地点に用意する。

(3)インバウンド対応

- ・「細かな配慮工夫」=地域住民の気配り・おもてなし、外語道標整備等、充分なる安全確保が必要。インバウンド向け地図の情報提供、多言語山ガイドの養成やポケットークの活用。在日各国外人へのPRとSNS等での情報発信を依頼するなど、インバウンド向け地域紹介ネットワークを構築する。

(4)先行取り組み地区

- ・地域全域での喫緊の課題は山ヒルの急増=忌避される観光地のイメージチェンジ
生活圏・里山における青根地区を照準として水源地区を配慮しながら山ヒル退治
(適量駆除)
薬剤(木酢水等)模索と散布方法検討(ドローン薬剤散布)
- ・不通となっている石老山(675m)の2登山路を修復し、グリーンシャワーエリアの「リーディングエリア」として整備する。

④「観光施設の整備」

- ・10年後を見据えての防災拠点機能や流域観光の要として「観光施設」(道の駅等)の整備を目指す。
- ・場所は圏央道相模原IC.至近の金原地区、国道413号線の青根・青野原地区等を想定
- ・流域へのゲートウェイ機能を中心に駐車&駐輪場、キャンプ用品&Ebike レンタル、域内特産品販売(サガミックス出店)、地酒等販売、グランピング施設の設置や流域林業復興に向け美木工品等を模索。美大等とのコラボ、周辺の中山間地域に適した新交通網(三太バス等)の整備が必須。

V. 運営組織

・官民協働、特に津久井在住者の未来づくりを尊重し支える環境が重要。

①相模原市主導にて若手職員による観光LRP（中長期計画チーム）を組織する。

副市長をリーダーに約30名のスタッフにて運営し、緑区役所がフォローする。

重ねて、相模原市観光協会をはじめ、相模原商工会議所、津久井商工会等の参加を得て緑区内各ロータリークラブ、津久井JC、地域有志&キーパーソン等有志等にて複数のバックアップチームを構成する。

②第2段階は、具体的な推進団体を確立して、具現化を目指す。広域的な組織（DMO等）

を立ち上げての活動も視野に入れる。藤野、道志村、山中湖村、秋山村との協働組織を模索。最終的には、山梨県道志村等、藤野、城山、相模湖商工会や観光協会を含めて、より広域的な検討チームを確立する。

VI. 津久井地域観光振興長期計画(LRP)に向けての整理・提案

- 1 相模原市南部（南区、中央区南部）への津久井観光振興（マイクロツーリズム）
- 2 山ヒル駆除方法、モデル対象地等の模索（津久井青根地区等）
- 3 八王子市や町田市観光協会等との連携
- 4 津久井地区観光（山・森の観光）への湘南地区（臨海部）から誘客（緑と青の交流）
- 5 相模原市観光協会の推進体制強化
- 6 山梨県道志村との情報交換（中長期戦略への協働可能性）
- 7 相模原市における自転車文化の醸成（バイクロアの醸成と伝承）
- 8 道志川流域、同山塊等における林業の振興策の検討（津久井産材木の活用等）
- 9 個々課題について「クラウドファンディング」の検討（課題PR、石老山登山路修復等）
- 10 地域の面白い人材発掘プロジェクトの実施（観光資源としての「人材」模索）

相模原市緑区を中心とした観光振興における課題事項等

(1)地域住民を中心とした観光担い手の創出

- ・ もりワーク（中山間地域対策ワーキング）等を通じた地域人材の育成

(2)観光版スタートアップ企業（DMO含む）の創出

・ 観光産業では、その地域での観光資源を基にした着地型観光（体験観光）がより多くの支持を集めており、観光産業における起業家精神に関する新しい知識も必要とされている。

さらに、スタートアップは、新しい体験型の観光商品を求める大手観光関連の企業から投資を受ける機会も拡大すると考えられます。

(3)自然・体験コンテンツの充実

- ・ 都市部のアクセス・集客力を起点とした自然・体験コンテンツ
- ・ 地域資源である自然を活用した「リトリート体験※」の実施

※リトリートとは、住み慣れた土地や日常生活から一時的に離れ、心や体を療養すること。

(4)ジャパンエコトラックへの参加検討

- ・ トレッキング・カヤック・自転車といった人力による移動手段で、日本各地の豊かで多様な自然を体感し、地域の歴史や文化、人々との交流を楽しみながら旅をする。新しい旅のスタイルである「ジャパンエコトラック」への参加も検討する。

(5)相模川流域観光の相乗化

- ・ 相模川流域（相模原・座間・海老名・茅ヶ崎）を一体とした広域的な観光資源活用の検討。

観光振興に係わるプロジェクトチームの設置要領

1. 趣旨

相模原市には、国内外からの観光客が特に集中する東京都心と近接していることや豊かな自然や歴史・文化などの多様な地域資源を有しており、さらに橋本駅周辺地区においては、2027年開通予定のリニア中央新幹線神奈川新駅設置及び車両基地の整備などが予定されています。

つきましては、緑区を中心とした新たな観光戦略を考える契機であることから、これらを強みとして活かすために下記のとおりプロジェクトチームを設置する。

2. 名称

「緑区観光振興戦略プロジェクト」

3. 委員

- (1)根本 敏子（副会頭）【リーダー】
- (2)原 幹朗（飲食宿泊業部会長）【サブリーダー】
- (3)谷津 弘（建設業部会長）【サブリーダー】
- (4)梅沢 道雄（専務理事）
- (5)布施 昭愛（理事事務局長）
- (6)渡貫 隆（中小企業振興部長）

※オブザーバーとして、適宜、相模原市観光シティプロモーション課職員等を招聘する。

4. 期間

令和3年10月～令和6年3月末【予定】（第3次相模原市観光振興計画中間見直し時期まで）

5. 成果目標

本研究会での意見等を集約し、第3次相模原市観光振興計画中間見直しに反映させるために提言書の提出することを成果目標とする。

緑区観光振興戦略プロジェクト会議の検討状況

2021年 7月1日 緑区観光振興戦略プロジェクトチーム設置発足

7月2日 打ち合わせ会議開催
(プロジェクトの目的・主旨の共有)

8月10日 提言書内容検討作業

9月21日 第1回観光振興戦略プロジェクト会議開催
(素案作成作業)

11月26日 第2回観光振興戦略プロジェクト会議開催
(相模原市観光協会との意見交換)

2022年 3月4日 第3回観光振興戦略プロジェクト会議開催
(津久井商工会との意見交換)

4月27日 第4回観光振興戦略プロジェクト会議開催
(相模原市観光・シティプロモーション課との意見交換)

6月13日 第5回観光振興戦略プロジェクト会議開催
(相模原市観光・シティプロモーション課との意見交換)